

53. 顎口腔疾患に対する高気圧酸素療法の検討

加來伸一郎 倉富慶太郎 松本 一
岩本 修 古賀千尋 楠川仁悟

(久留米大学医学部口腔外科学講座)

高気圧酸素療法（以下HBO）は、全身的あるいは局所的低酸素状態を改善する治療法であり、口腔外科領域では骨髄炎を始めとした難治性感染症に対し、補助的療法として行われている。しかしながら、HBOの適応、治療時期、効果の評価等においてはまだ、明確な基準がないのが現状である。そこで、最近当科でHBOを行った症例につき、臨床的に検討する。

対象と方法：対象はH8年～H12年までの5年間に当科でHBOを行った32例である。当科でのHBOのスケジュールは、1日1回空気加圧

(1.8kg/cm²)下でマスクにより酸素を投与(4ℓ/分×40分間)を行っている。32例の性別は、男性23例女性9例で、平均年齢は63.2歳であった。原疾患は、放射線性下顎骨壊死(以下ORN)14例、下顎骨骨髄炎8例、放射線照射後抜歯のORN予防5例、骨移植後の補助4例、頸部蜂窩織炎1例であった。HBOの目的別にその効果および合併症について検討した。

結果：消炎・除痛目的24例のうち、効果あり7例、不変17例、悪化0例であった。骨移植後の補助では全例正着し、ORN予防目的の抜歯でも全例ORN発症することなく良好に治癒した。合併症として、耳痛19例、滲出性中耳炎2例、前頭痛1例で、耳痛に対しては18例に鼓膜へのチュービングにより改善した。HBOは急性症状の改善、感染予防には有効であるが、ORN例での有効率が14.3%と低かった。

54. 脳腫瘍に対するHBO直後照射の短期成績

井上 治*¹⁾ 野原 敦*¹⁾ 砂川昌秀*¹⁾
小川和彦*²⁾ 吉井與志彦*³⁾ 田村貴光*³⁾

*¹⁾ 琉球大学医学部附属病院高気圧治療部
*²⁾ 同 放射線科
*³⁾ 同 脳外科

【目的】合志らは脳腫瘍に対し、高気圧酸素療法(HBO)を行い、腫瘍内酸素分圧の高い内に放射線照射(HBO直後照射)しているが、腫瘍の縮小や生存期間の延長などが得られ、HBOの画期的適応となりつつある。

われわれも本法を21例に追試し、照射後2年～6ヶ月の短期であるが良好な成績が得られているので報告する。

【症例】原発性脳腫瘍21例(男12例、女9例)で、Glioblastoma 14例(多発性1例)、Astrocytoma 4例(未分化3例)、Oligodendroglioma 3例(未分化2例)に対しHBO(2.8ATA, 60分)施行後、隣の高エネ室で10分以内に照射を終了した。HBOは11～30回(30回17例、28回1例、18～11回3例)を照射(2Gy/日、週5回)に合わせて施行した。本院で初めからHBO直後照射を行ったのは18例、他院で照射が行われ、途中から本院でHBO直後照射を行ったのは3例で、前者はいずれも60Gy照射され、後者は42～60Gy照射された。

【結果】照射前に腫瘍が残存するもの、すなわち「残存群」は生検のみ5例、部分切除8例、再発3例の計16例で、また全切除(摘出)後にMRIで腫瘍を認めないもの「摘出群」は5例であった。HBO直後照射による抗腫瘍効果をMRIで評価すると、「残存群」中、HBOを28～30回行った13例では、照射直後において腫瘍の縮小9例、サイズ不変4例、照射中に増大したものはなく、2年までの経過で死亡例は無かった。「残存群」でHBOが11～18回の3例でもいずれも縮小し、2年までの経過で生存している。「摘出群」5例ではいずれもHBOを30回行い、6ヶ月以上の経過で再発を認めない。

【結論】従来の照射単独に比べると、ほとんどの腫瘍が縮小し、照射後の再発は見られず、生命的予後も良好であったが、腫瘍が50%以上縮小したのは1例のみで、腫瘍が消失した症例はなかった。